

学級通信が学級経営に与える効果と今後の課題

酒井 真依 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 森川 みえこ

キーワード：学級通信，学級経営，効果，今後の課題，問題点

1. 緒言

近年，SNS でのいじめや教師への反抗など“学級崩壊”が教育の大きな問題として挙げられている。その背景には，教員と児童との関係性や教員と保護者との関係性，児童と保護者の親子関係，児童間の人間関係などが良好であるかということが大きく関係していると考えられる。

鈴木 (2012) の調査により，「学校の様子がよく分かる」「教師の指導方針がよく分かる」という声を聞けることから，多くの教員が目的としている「保護者との連携のため」という達成度は高いこと。寺本(2010)の調査では，学級通信に子どもの成長や作品等を掲載することが，子どもの自尊感情の安定及び学級担任が主観でとらえる子どもの成長に影響を及ぼしていることなど，学級通信が学級経営に与える効果が報告されている。しかし，学級集団作りに対しては，戸田(2013)が，教師の学級経営に関する信念の差異によって，教師の学級経営観タイプが異なることを明らかにしている。

本研究では，学級通信が学級経営に与える効果が明らかにされている一方で，学級通信を作成する時間や，掲載内容の話題が少ない等の問題点を明らかにすることを目的とし，学級通信の在り方の検討を試みた。

2. 研究方法

本研究の調査対象者は，大阪府池田市の小学校3校で担任を持つ教員40名である。

調査内容を先行研究より，学級通信が学級経営に与える効果を参考に，質問紙アンケート作成し留置法により実施した。

3. 結果と考察

学級通信を作成している教員は40人中32

人(80%)であった。また，学級通信が学級経営に及ぼす効果があると思う教員は発行していない教員8人を含め，36人(90%)であった。このことから，ほとんどの教員は学級通信が学級経営に及ぼす効果があると期待している。しかし，効果はあると思うが作成できないということが実態として考えられた。

学級通信の発行頻度は特に決められておらず，教員によって様々であった。しかし，多くの教員が，作成する時間が確保できない，作成が苦手，教材研究に時間をかけたいなどが挙げられた。子どものことについて掲載する際の，機会均等のための確認作業なども負担を感じる理由の1つであった。

表1. 負担に思う事 (N=40)

	学級通信を発行している		学級通信を発行していない		未回答	合計
	男性	女性	男性	女性		
作成する時間が確保できない	6(15%)	11(27.5%)	1(2.5%)	4(10%)	0(0%)	22(55%)
教材研究に時間をかけたい	2(5%)	1(2.5%)	1(2.5%)	1(2.5%)	0(0%)	5(12.5%)
話題が少ない	0(0%)	1(2.5%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(2.5%)
作成が苦手	2(5%)	3(7.5%)	1(2.5%)	0(0%)	0(0%)	6(15%)
その他	3(7.5%)	1(2.5%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	4(10%)
未回答	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	2(5%)	2(5%)
合計	13(32.5%)	17(42.5%)	3(7.5%)	5(12.5%)	2(5%)	40

4. まとめ

今回の調査では，学級通信が学級経営に与える効果は認められているが，それ以上に，教師の仕事は，子どもたちが帰った後も山積みであり，学級通信の作成にかかる時間が確保できない現状が深刻であることや，本来守るべき子どものプライバシー，子どもの発達段階に応じた配慮が必要となること。保護者との連携において，保護者がどの程度の割合で読んでいるのか現状を把握することなどの課題も多く挙げられた。したがって，学級通信の発行に関しては今後も検討していく必要があると考えられる。

5. 引用・参考文献 寺本英雄 (2010) 子供と学級通信の掲載内容及び掲載方法の関係についての研究：鈴木健二 (2012) 学級経営における学級通信の役割：戸田緑 (2013) 小学校教師の学級経営観に関する一考察